

パーソナル・ファイナンス・リテラシーの測定： 米国のテスト問題（小学生版・中学生版・高校生版）を用いて

山岡 道男

早稲田大学大学院
アジア太平洋研究科

浅野 忠克

山村学園短期大学キャリア
コミュニケーション学科

阿部 信太郎

城西国際大学経営情報学部

1 はじめに

筆者らは、2009年11月開催のパーソナル・ファイナンス学会第10回全国大会（於早稲田大学）で、「アメリカにおけるパーソナル・ファイナンス教育：米国CEE（全米経済教育協議会）の活動を中心として」というテーマで、報告を行った。その報告は、後述する第6回生活経済テスト（高校生版）に関して、米国と日本の高校生のテスト結果を比較検討した内容であった。本稿では、その後に入手したデータを用いて、日米間の国際比較という視点ではなく、まず第6回生活経済テストでは、日本の高校生と大学生を比較するほかに、2時点間（2004年と2010-11年）でも比較検討する。次に、2009年の報告の際にも予告したように、中学生版テスト問題である第8回生活経済テストと、小学生版のテスト問題である第9回生活経済テストの新たなデータを用いて、中学生・高校生・高等専門学校生・大学生の間のテスト結果に関して比較検討を試みる。

従って、第1に、これまで実施してきた計10回生活経済テストと小・中・高校生用の3種類のパーソナル・ファイナンス・テストとの関係をまず明らかにし、第2に、この3種類のパーソナル・ファイナンス・テストの作成過程や内容に関して解説し、最後に、このテスト問題を使って日本で実施したテスト結果に関して、その特徴を明らかにする。

2 10回の生活経済テストとパーソナル・ファイナンス・テストの関係

筆者らが所属する経済教育に関する研究グループは、日本の高校生・大学生の経済リテラシーを高めるために、これまで10回生活経済テストに関する問題集を作成し、それらを用いてアセスメント・テストを実施し、生徒・学生の経済リテラシーの程度を測定した（注1）。それらを分類すると、第1回から第3回までは、高等学校の学習指導要領を勘案してテスト問題を作成したが、第4回から第10回までは、米国の共同研究者であるネブラスカ大学のウィリアム・B・ウォルスタッド（William B. Walstad）教授とセントクラウド州立大学のケン・リベック（Ken Rebeck）准教授との協力の下に、彼らの作成した6種類の問題集を用いて、それらを日本語に翻訳した上でテストを実施した。

この6回の中で、第4回・第5回・第7回・第10回は、経済に関するテスト問題集であり、それらの内訳は、第4回・第5回が高校生用の、第7回は大学生用（マイクロ経済学問題とマクロ経済学問題の2種類の問題集）の、第10回は中学生用のテスト問題集であった。残りの3回分は、経済教育の視点に基づくパーソナル・ファイナンスに関するテスト問題であった。